

第三者コメント

「CSRレポート2005」に記載された内容について客観性、信頼性を高めることを目的とし、専門家の方から意見をいただきました。

第三者コメントは、情報の正確性に関する意見表明を行うものではありません。



株式会社トーマツ環境品質研究所
代表取締役

榎 宏氏

CSRを実践する上で必要なことは何か

CSRを実践していく上で村田製作所グループの事業活動において、重点をおいて取り組むべきことはどういったことでしょうか。CSRを実践する上で必要なことは、取り組むべき課題の重要性を評価し、重要な課題が洩れなく特定できているか、また、ステークホルダーの関心事を把握し、確かに応えられているかだと思われます。このことは、「ステークホルダー満足度の向上につながる取り組みが行われているか」と言い換えることもできます。このような観点で村田製作所グループのCSRへの取り組みを考えれば、ステークホルダーとのコミュニケーションが非常に重要なことであり、ステークホルダーのニーズを特定するとともに、このようなニーズにどのように対応したかを情報開示していくことがステークホルダー満足度を向上させるために非常に重要な取り組みだと言えるでしょう。今回のCSRレポートでは村田製作所グループとステークホルダーの関係を明確にし、ステークホルダーに対する約束を明確にされたことは非常に意義のあることだと思われます。

村田製作所グループの社会における役割とは

村田製作所グループが持続可能な社会に向けて最も貢献できることは、「対談 未来への責任」の村田社長の談話にもあるとおり、環境に配慮しつつ「優れた電子機器をできるだけ多くの人々が利用できるよう、高品質、高機能のムラタ製品を提供すること」だと思われます。ただ、グローバルに事業展開していることから、アジアなど発展途上国への一層の地域経済への貢献も期待されるところだと思われます。

今後改善すべき点は

ステークホルダーへの対応に関して、お客様満足度に関しては、満足度を調査するなど、お客様のニーズに的確に対応されていると思われますが、従業員とのかかわりにおいても、従業員の満足度調査を実施するなどして、「人権の尊重」「雇用における機会均等と多様性」などへの取り組みがうまく機能しているかを評価することが必要と思われます。また、地域社会については、経済、文化の面では十分に貢献されていると思われますが、最近の異常気象や突発的な事故などの災害時における企業の貢献が注目されており、災害時の地域との協力関係の構築が期待されます。

地域別売上高では国内31.4%、海外が68.6%とありますが、CSRレポートの情報は国内が中心であり、海外の取り組みに関する情報の充実が期待されます。特に社会性に関しては文化も法令も異なる海外において、従業員の雇用、地域への社会貢献などの取り組みにどのような点で配慮されているのかステークホルダーの関心も高いのではないのでしょうか。また、社会性については重要な課題に対しては定量化された目標管理の充実を期待します。